

Bulletin 2017 1



COLONNADE

特集●震災復興シンポジウム

- 建築家の職能と住民参加型の震災復興を考える 2
中山信二 中山建築デザイン研究所
宮島 亨 V建築設計室

FORUM

海外レポート

- 現在の香港建築事情 4
芝本敏彦 山下設計

覗いてみました他人の流儀

- 佐治薫子氏に聞く よい音楽がよい環境をつくり、よい伝統となる 6
佐治薫子 千葉県少年少女オーケストラ音楽監督

温故知新

- 抱負を語る 10年後の自分 9
古谷俊一 古谷デザイン建築設計事務所
抱負を語る グローバルということ 9
土屋哲夫 日建設計

委員会活動報告

- 〈交流委員会〉第29回フレンズカップ大会 10
小林幹直 川本製作所
〈JIAトーク実行委員会〉好奇心が生み出す五感の空間 11
いしまるあきこ いしまるあきこ一級建築士事務所

地域会だより

- 〈三多摩地域会〉ここにあるタカラもの！—まちづくりという視点から— 12
高田典夫 アトリエテン
〈杉並地域会〉土曜学校の報告—地域の資源として空き家を活用するために— 13
林 美樹 Studio PRANA

部会活動報告

- 〈住宅部会〉住宅部会活動報告 14
宮島 亨 V建築設計室

日本版CABEを考える

- 建築界からの提言「東京構想POST 2020」について 15
黒木正郎 日本設計

選挙公報

- 2017年度役員改選に関するお知らせ 16
役員選出規約 17
役員選挙細則 18

BACKYARD

- JIA建築家大会2016大阪 終了の御礼 19

アーキテクト・ガーデン 2016 建築祭

●建築相談委員会

建築家が取り組む建築相談

建築相談の支援制度・同潤会上野下アパートメントの建替え

高塚博志



6月18日(土) 13:30~16:00 AGC studio(旭硝子ショールーム2階)

はじめに、セミナーを開催した今年の水無月は文字通りの空梅雨で、夏の首都圏水不足が心配されます。この文が掲載される頃には、水不足と熊本地震被災が治まっていることを祈念します。

さて、相談委員会主催の今回セミナーの主題は、「消費者が抱える建築紛争と紛争解決の支援制度」、「同潤会上野下アパートメントの建替えを語る」というテーマで、東京都消費生活総合センターの池田様、住宅リフォーム・紛争処理支援センターの青木様、および、元同潤会上野下アパートメント建替え組合理事長様と建替コンサルタントという多彩な顔ぶれの講師の皆様により、大変に充実したセミナーとなりました。

池田様と青木様には、相談業務の概要や相談事例を紹介いただき大変に参考になりました。組合理事長様と建替コンサルタントの皆様からは、マンションの建替えの困難さについてお話しいただき、参加者の皆さんにとっても今後の仕事等で貴重な参考になると確信しました。

講師の方々も含めて56名の方に参加いただきました。講師の皆様まことにありがとうございました。また、この場をお借りして、セミナー開催にご協力いただきました、AGC studio様はじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



当日のセミナーの様子

●杉並地域会

JIA 杉並土曜学校

杉並・空き家・空き地活用フォーラム

中村雅子



6月18日(土) 14:00~17:00 細田工務店(阿佐ヶ谷)

まちの不動産やさんから、空き家活用のオーナー、NPOで活躍されているコミュニティーを重視した賃貸型集合住宅の住人、空き家のリノベーション設計者とさまざまな方々の多くの話を聞いて、フリートークの時間も設けた新しい企画となりました。

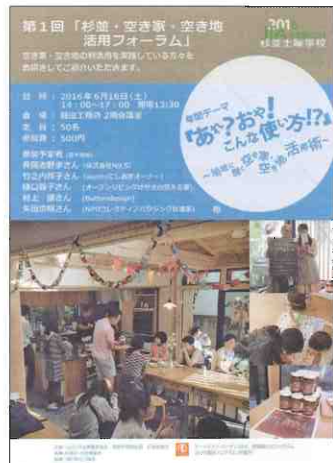
参加者は約40名、次回も空き家・空き地をキーワードに待機児童と絡めての企画としています。



5人のパネラーが15分ずつ空き地・空き家の利活用の事例を紹介



その後円くなってフリートーク



●住宅部会

SUMAIセミナー PART23

デザイン力が住宅を変える

片倉隆幸



6月25日(土) 13:00~15:00 LIXIL ショールーム東京7階イベントルーム

今年度住宅部会は、建築家の職能を真正面から捉え、建築家の本質、理念をわかりやすく市民に伝えていこう、暮らしから考えたらこんなデザインができる、家にとってデザインとは何か？デザイン力が暮らしを変える、というテーマにてセミナーを進めています。

周辺環境から文化を読み解き、敷地の特殊性、通風、採光、家族の居場所、温熱環境、コストも含めて広義の意味でのデザイン力が住宅を変えるという内容をコーディネーター役の僕が進行。その後、周辺環境から考えるデザイン、家族の居場所をデザインするという内容についてスライドを交えて、部会の高橋さんと関本さんを講師に、3人のディスカッションにより「真の温かさを感じていける住まいを求めて、建築家は施主の暮らし向きと文化もデザインしていく」という話をさせていただきました。

会場の皆さんからの質問もいただき、建築家のデザイン力が暮らしを変えるという本質的なセミナーができたかと思います。



COLONNADE

杉並地域会

土曜学校の報告

—地域の資源として空き家を活用するために—



杉並地域会
代表
林 美樹

杉並地域会の「JIA杉並土曜学校」も今年で9年目となりました。昨年からは世間で問題となっている「空き家」をテーマに開催していますが、今年度はより具体的に活用の方法を探ろうと、年間テーマを「あれ？おや！こんな使い方!? ～地域に開く空き家・空き地活用術～」として企画しました。

第1回は6月18日に「杉並・空き家・空き地活用フォーラム」を開催しました。それぞれのアプローチで、実際に空きスペースを有効活用し、地域に開く活動をされている方々からお話を伺いました。パネラーとして参加して下さったのは、齊藤志野歩さん(株式会社N9.5)、竹之内祥子さん(okatteにしおぎ)、樋口容子さん(オープンリビングけやきの見える家)、村上譲さん(Buttondesign)、矢田浩明さん(NPOコレクティブハウジング社理事)の皆さん。そのあとは会場の方々と活発なディスカッションで盛り上がりました。

第2回は杉並で問題となっている待機児童と空き家を結びつけられないかと考え、「解決！空き家&待機児童～保育ママさんの小さな保育所～」として9月10日に開催しました。保育ママさんを長年されている、大木ひとみさん、尾崎佳代子さん、島香織さんにパネラーとなっただき、この日は小さいお子さん連れでも参加できるように保育コーナーを設けました。

自宅で0～2歳の3～5人の子どもを預かる保育ママさん(家庭福祉員)の制度はあまり知られていませんが、家庭的環境で地域とつながりながら子どもを育てられるというメリットもあります。働く新米お母さんにとっては、保育ママさんは子育ての心強い相談相手にもなっています。この企画を立ててから、家庭的保育、小規模保育、認定こども園なども見学し、就学前の子どもたちの過ごす場所、その保育内容や質について深く考えさせられました。特に乳幼児が過ごす場所として、一般の認可保育園がベストな選択なのかどうか、また徐々に定員割れが起きている幼稚園はどうすべきなのか等々。1歳になってからの保育園への入園は競争率が高いため、0歳から預ける親も多いことや、乳幼児のみの小規模保育や家庭

的保育の場合、3歳からの入園先を探すのが難しいなど、さまざまな現状がわかってきました。

杉並区としては、地域型の小規模保育ではなく、規模の大きい認可保育園を増やして早急に待機児童を解消したいようです。その保育園の建設地として公園が潰されることで地域住民から強い反発が出ていることは、メディアでも報道されています。また、昨年施行された「子ども・子育て支援新制度」によって、小規模保育、家庭的保育(保育ママさん)等も認可事業に移行することが決まっており、それに伴い保育場所となる建物の耐震性、2方向避難等が求められ、一般住宅での家庭的保育が難しくなっていることも知りました。さらに空き家を使った保育所となるとかなりハードルが高そうです。しかし、耐震性を高めることは住宅として改修する場合でも必須ですから、それらをクリアしつつ活用することは不可能ではないはずです。それ以外にも借家の契約期間や固定資産税が上がるなど、ネックになることが多々あることもわかってきました。

実際には、ちょうどいい空き家が見つからない、あっても貸してもらえないなどスタート時点から大変だという声も聞きました。まだまだ、私たちも空き家活用のために何が必要なのか、現状の法制度についても専門家として意見していかなければならないと感じています。

第3回は11月19日に空き家と高齢者を結びつけて問題点を探りました。「空き家&高齢者～近所につくろう〈みんなの家〉～」として、地域に開いた魅力的なグループホーム「グループボエンデ」を運営する入倉遼平さん、区内で訪問介護ステーションをされている森安みかさん、中野区で医院の1階を地域の談話室に改修した建築士の鈴木ひとみさんなどをパネラーとしてお迎えしました。

道のりはまだまだ遠そうですが、絡まった糸を少しずつでも解きほぐし、他の専門家の方々と連携しながら、空き家を地域の資源として活用していきたいものです。

